

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200917		
法人名	医療法人誠心会		
事業所名	グループホーム小松原	ユニット名	2号館
所在地	宮崎県都城市小松原町1161-3		
自己評価作成日	平成25年5月9日	評価結果市町村受理日	平成25年7月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4570200917-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年6月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を考慮し職員で作り上げた理念をホールに掲げ、日々その実践に取り組んでいる。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り、文化祭、地域の保育園の運動会の練習を見に行ったりと、利用者が地域と関わりながら生活が送れるよう努めている。しかし、日常的とは言えない。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自分たちが取り組んでいる認知症ケアについて、地域の人に向けては特に行っていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議ではホームの活動、入所者の状況を報告するが、家族、職員がお互いに意見を出し合っているとは言い難く、サービスの向上に活かしているとは言えない。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、さまざまな意見を出してもらっている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束等の排除」に関するマニュアルがあり、身体拘束の定義を殿職員理解し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の定義、具体的な行為を事業所内で学び、自分たちの職場でそのような行為が行われていないか、振り返る機会を設けている。			

自己	外部	項 目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護や自立支援事業、成年後見人制度について特に学ぶ機会を設けていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約時は十分に説明を行い、利用者家族が理解、納得出来るよう遂行している。改定等は、その都度文書で説明している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に苦情処理担当者を設置している。また、ホーム内に県、市町村の相談窓口の電話番号を掲示している。すぐに対応できる要望、意見は職員間で話し合い、速やかに改善するよう努めている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者(管理者)が常に職員会議に出席し、会議で出た意見、提案等の改善可能な事は柔軟に対応している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員が心身共に負担を感じることなく仕事が出来るように、職員や非常勤職員を十分に配置したり、利用者に目が行き届くよう配慮している。また、時間通り仕事が終わるよう、働きやすい環境作りに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や力量にあった研修参加の機会を設けている。また、希望する研修があれば、勤務に支障がない限り受講できるようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	都城市内のグループホームの定例会があり、意見交換や情報交換する機会がある。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者がホーム内でどのような生活を望んでいるか、どのような不安を抱えているのか、ゆっくり話をする機会を設けている。うまく言葉で表現できない利用者には、適切に気持ちを代弁し、利用者が安心出来る関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とゆっくり話す機会を持ち、どのような不安を持っているのか、どのような要望を持っているのか、事業所に対して何を望んでいるのか把握するよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合、利用者の心身の状態、相談者の困っている事の把握に努め、利用者や家族が今必要としているサービスが受けられるよう支援している。当ホームが満所の場合、他施設や他グループホームの情報を提供している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	手伝いをして下さる事に感謝の気持ちをお互いに言葉にしたり、利用者から介護に対する感謝の言葉を頂いた事で、笑顔や喜びを感じたり、職員は利用者が共に支え合い共に与えあう関係であるという意識を持って支援している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の方が利用者を大切に思う気持ちを大事にし、日頃より生活の様子・心身の状態を報告している。そうする事により、問題(心身の変化・体調の悪化、帰宅願望等)発生した場合、速やかに家族に相談し、協力してもらう事で、職員と家族が共に利用者を支えている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会も多く、お茶を出し部屋でゆっくりと過ごせるよう配慮している。ホールで面会される時は、他の利用者・職員と交えて雑談したり、普段の暮らしぶりを話したり、面会しやすい雰囲気作りを心がけ、馴染みの関係作りに努めている。また、家族・友人との外出もあり、馴染みの人との関係が継続出来ている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は一人ひとりの性格、人間関係、心身の状態を把握し、利用者が孤立しないよう配慮している。利用者間で優しい言葉を掛けあったり、出来る方が出来ない方の手助けをしたり、自然と関わり合いを持ち、支え合うような人間関係が築けている。			

自己 外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時、継続的に関わりを必要としたケースは今の所ないが、必要な場合は行用意はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の様子を通じて発せられる言葉や行動から、利用者の希望や想いを把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、利用者やご家族の方から生活歴や生活のリズムなどを聞いたり、入所後も面会時に関心事やサービス利用の経緯などを聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの持っている能力を把握し、ホームの手伝いや(お茶碗拭や洗濯、食事の準備等)レクに参加してもらう事で、暮らしの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議、サービス担当者会議で、利用者一人ひとりが快適に過ごせるよう意見を出し合い、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌やケース記録、モニタリングなどに記載している情報を把握し、また、職員間で情報を交換したり、意見交換したり、気付いた事を申し送りに記載したりする事で、ケアの実践や介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族よりかかりつけの歯科医師の往診の要望やマッサージ師の希望があったり、腰痛のある利用者のご家族は電気治療の器具を持って来られ、日中、夜間帯に電気治療をして欲しいと希望され、事業所として利用者のご家族の方が満足される柔軟な対応が出来るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの地域の祭りに参加、ふれあい祭りへの作品出品や灯籠を奉納したりしている。誕生日会を盛り上げるため、個人個人の好きな主旨を尊重し、ボランティアさんをお願いをするなどの活動支援を行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所する際に、本人さんやご家族の方の希望する医療機関を把握し尊重している。専門医が必要な方は、ご家族との相談により協力を得ている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	敷地内に病院があり、すぐに連絡を取れるようになっている。体調悪化や訴えがあると、即相談でき、処置ができる環境である。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や入院先の医療関係者に連絡を取り、状況把握や心身の状態、病状を把握し、早期退院に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望を聞き、ターミナルケアについて話し合っている。敷地内の病院と相談し、医療を行っている、看護師と相談し、介護の中で出来る事を行っている。職員でも話し合い、知識を共有している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医にすぐに連絡が取れ、壁にマニュアルがあり、マニュアルを作成している。目につくところにあり、電話機の目の前に貼ってある。いつも目にして、頭に入れている。職員同士でも、もしものことを話し合い確認をしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を消防署の方の立ち会いの下、実施や電話での連絡方法などを実践している。利用者も参加してもらっている。食料やオムツを常備している。			

自己	外部	項 目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の利用者の方との関わり等、考慮しながら声掛けを行っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方とコミュニケーションを通して、その中から、思い、希望をくみ取り、本人と共に考えながら支援を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴等、一応時間が決まっているが、声掛けを何度か行っても応じられない時は食事の時間をずらしたり、次の日に入浴してもらったり、職員の都合に利用者を含め合わないよう気を付けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の更衣は、その日の天候、利用者の方の体調を考慮してアドバイス、声掛けを行い、本人に選んでいただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の感じられる旬の食材を献立に取り入れている。無理強いすることなく、おかずつぎ、配膳、片付けをお願いしている。職員も食事を共にしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理は、味付け、食べやすさを考え行っており、個々に応じて食材の形状を食べやすい状態にして、提供している。本人のペースに合わせた食事介助を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、準備を行い、歯磨きをしていただく。自力では困難な方は職員が、介助で義歯洗浄、口腔内ケアを行う。夕食後は義歯を預かり、一中夜、			

宮崎県都城市 グループホーム小松原(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の恐れのある利用者様でも、すぐにリハビリパンツなどの使用をせず、定期的にトイレ誘導を行っている。ベッドでの生活が多い利用者様も、トイレで排便をして頂くよう支援している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者様に、お茶の時間以外にも水分補給していただく時間を設けている。レクリエーションでは、体操で体を動かす機会を作り、食事面では野菜を多く取り入れたメニューにする事で、便秘予防を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様には曜日で分かれ入浴を行って頂いているが、入浴が好きな方には毎日入っていただくなど、なるべく希望を取り入れるようにしている。入浴が苦手な方には、話をして本人様が気が向いたのを察知し、お風呂場へ誘導している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯の睡眠の状況や訴えなどによって休んで頂いたり、利用者様の日々の状態から職員同士で話し合い、休む時間を設けている。また、音楽が好きな方には音楽をかけるなどして、安心して休んで頂けるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を見て、薬の作用を確認している。服薬時は、日にちや時間帯を利用者様の前で確認し、誤薬を防いでいる。服薬後の症状に変化があった場合の報告や、便がゆるいなどの相談を主治医、看護師にしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや掃除等の家事を利用者様と一緒にやっている。利用者様がすすんで手伝ってくださる事も多いが、役割が同じ方にかたまる事が多い。趣味を職員も一緒にしたり、それについての話題づくりを心掛けている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候のよい日は外でのレクリエーションや車で景色を見に行ったり、買い物に出掛けられている。外に出たい方がいれば、近くへ散歩に行く事もあるが、大勢で行く事が難しく決まった方が多い為、利用者様全員の希望に沿えているとは考えにくい。			

自己	外部	項 目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ホームでお金を預かり管理している。買い物時、支払いを一緒に行おうと声を掛けるも、職員に任せたいという声が多く、職員が支払いを行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	掛けてほしいと利用者様からの希望がある時、職員からご家族に電話をかけ、取り次ぐ場合もある。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は壁画で季節感を出したり、いつでも花が見れるよう利用者様から見える位置に花壇を置いている。また、利用者様の立場になり、共用空間づくりとして温度調節、清潔感にも気を配っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂での一人の空間というスペースは設けられておらず、それぞれ自分の時間を居室で過ごされている。廊下の奥にベンチを設置しており、そこに座り外を眺めている利用者様もおられる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が馴染みのある物や写真を持参してくださる為、それらを飾るなどして空間作りを行っている。飾る事が好きではない利用者様に対しては、本人の気持ちをくみ取り、最小限にとどめている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレが分かりにくい方の為に張り紙をしているが、毎日の生活から記憶されている方も多く、歩行可能な利用者様は、自由に食堂やトイレ、居室に行かれている。安全の為、歩行の妨げになる場所に物を置かないよう気を付けている。			